

# 決算説明資料 (2023年度)

2024年 6月10日



# 2023年度 決算概要

## 2023年度 決算概要

- 当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ引き下げられたことにより行動制限が緩和され、社会経済活動の正常化が進み、回復の基調にあるものの、資源価格の高騰や、ウクライナ情勢の長期化、中東地域の不安定化など国内景気の先行きには依然として不透明感を残しております。
- このような事業環境の中、呼吸用保護具を中心に労働安全衛生保護具を供給している当社は、新型コロナウイルス感染症対策向けマスクの受注が減少したものの、主要顧客である製造業からの受注は堅調に推移したことに加え、商品売上高が期初からの順調な受注により増加し、売上高は0.9%増の129億95百万円となりました。
- 利益面では、製品原価の低減に努めたものの、原材料価格の高騰及び製品売上高が86億60百万円と前年同期比2.8%減となったことを受け、製品原価率が悪化したことから売上総利益は前事業年度比2.0%減の40億2百万円となりました。
- 販売費及び一般管理費は、社会経済活動の正常化により、展示会や出張を伴う営業活動が活発化し、広告宣伝費や旅費交通費が増加したことに加え、構築を進めている次期基幹システムに係る経費負担もあり、前事業年度比では3.1%増の32億18百万円となりました。
- 以上の結果、営業利益は前事業年度比18.7%減の7億84百万円、経常利益は21.9%減の8億円、当期純利益は21.9%減の5億84百万円となりました。

# 2023年度 損益の状況

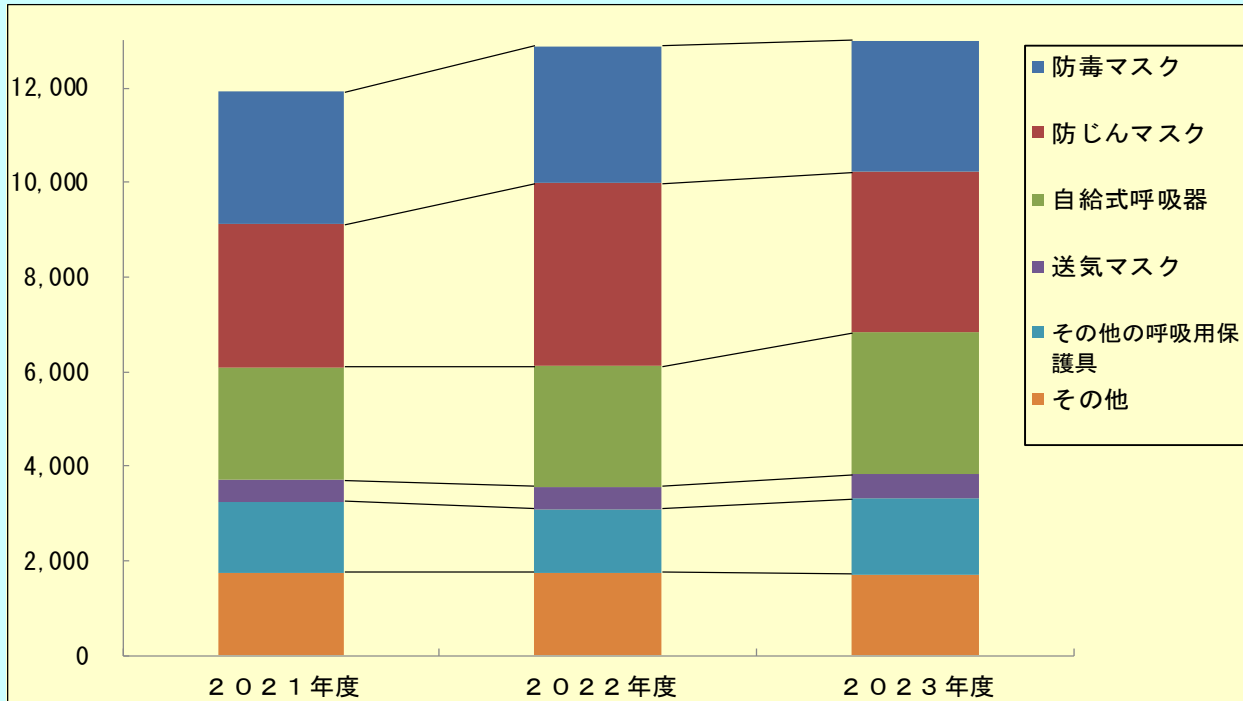
(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2021年度	2022年度	2023年度		
			実績	前々期比 増減	前期比 増減
売上高	11,918.9	12,875.7	12,995.4	1,076.5	119.7
製品製造原価	5,608.9	6,028.5	6,103.6	494.7	75.1
商品原価	2,607.7	2,762.0	2,888.9	281.2	127.0
売上原価	8,216.6	8,790.5	8,992.5	776.0	202.1
売上総利益	3,702.3	4,085.2	4,002.8	300.5	△82.3
販売費及び一般管理費	3,097.2	3,120.1	3,218.0	120.8	97.9
営業利益	605.1	965.1	784.8	179.7	△180.2
営業外収益	89.0	91.7	52.5	△36.4	△39.2
営業外費用	40.5	31.4	36.6	△3.9	5.3
経常利益	653.6	1,025.4	800.7	147.1	△224.7
特別利益	169.3	5.6	—	△169.3	△5.6
特別損失	18.3	8.2	3.9	△14.4	△4.2
税引前当期純利益	804.6	1,022.8	796.8	△7.8	△226.0
法人税等	144.9	203.9	218.0	73.1	14.1
法人税等調整額	70.6	70.6	△5.3	△75.9	△75.9
当期純利益	589.1	748.2	584.1	△5.0	△164.2

# セグメント別売上高推移

(単位：百万円)

## 当年度の特徴



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

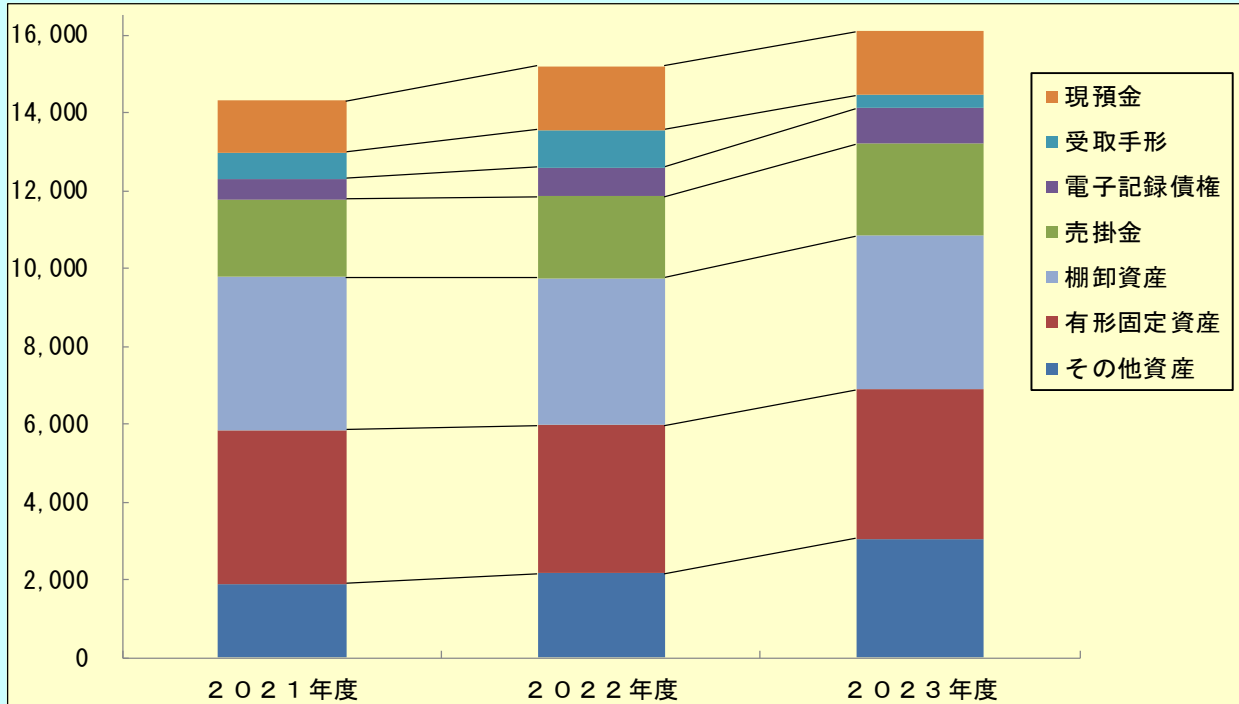
	2021年度	2022年度	2023年度
防毒マスク	2,806.7	2,899.0	2,774.0
防じんマスク	3,017.0	3,862.5	3,405.5
自給式呼吸器	2,385.0	2,544.9	3,003.7
送気マスク	452.8	475.2	506.7
その他の呼吸用保護具	1,507.2	1,355.2	1,595.9
その他	1,750.1	1,738.9	1,709.5
合計	11,918.9	12,875.7	12,995.4

- ① 当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、回復基調にあるものの、ウクライナ・中東情勢、中国経済の停滞等を背景に、先行きには不透明感を残しております。
- ② このような事業環境の中、新型コロナウイルス感染症対策向けマスクの受注は減少したものの、主要顧客である製造業からの受注が堅調に推移したことに加え、商品売上が期初からの順調な受注により増加し、売上高は、前年度比1億19百万円の増加となりました。
- ③ 主要品目別では、防毒マスク、送気マスクはほぼ前年並みの売上でありましたが、防じんマスクが前年度比で4億56百万円の減少、その他の呼吸用保護具は2億40百万円の増加となりました。
- ④ また、その他項目では、保護衣等を中心に、前年度比29百万円の減少となりました。

# 主要資産状況推移

(単位：百万円)

## 当年度の特徴



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2021年度	2022年度	2023年度
現預金	1,347.1	1,627.4	1,629.3
受取手形	673.7	965.1	345.1
電子記録債権	518.0	767.9	912.5
売掛金	2,013.2	2,085.6	2,369.5
棚卸資産	3,919.1	3,775.7	3,944.6
有形固定資産	3,955.8	3,820.4	3,843.4
その他資産	1,895.5	2,160.0	3,052.2
合計	14,322.4	15,202.1	16,096.5

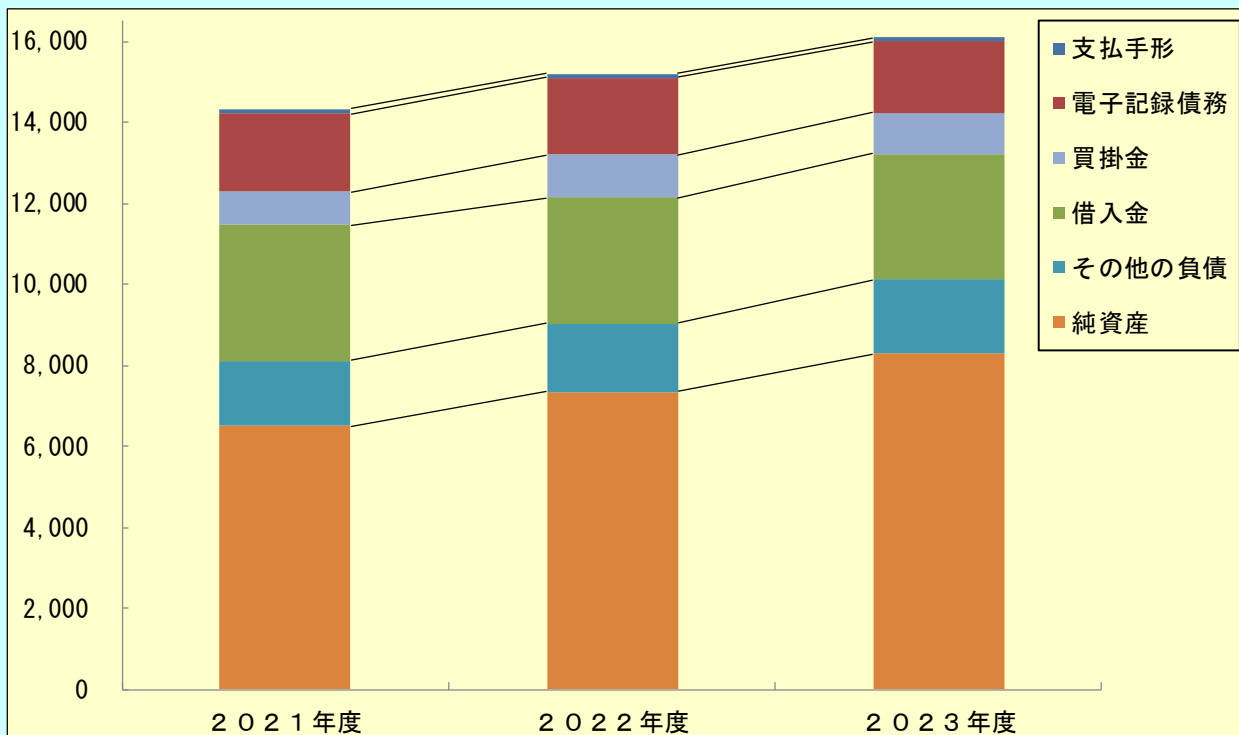
- ① 現預金の残高は、前年度から大きな変動はなく、前年度末比で1百万円の微増となりました。
- ② 売上債権（受取手形＋電子記録債権＋売掛金）残高は、受取手形から電子記録債権への移行はあるものの、順調な売上を受け、1億91百万円増加しています。
- ③ 受注も引き続き好調を維持していることを受け、棚卸資産全体は、前年度末比1億68百万円の増加となりました。
- ④ 有形固定資産は、生産設備・金型の取得を行いました。既設設備の減価償却も進み、前年度比で23百万円の増加にとどまりました。
- ⑤ その他資産は、保有している投資有価証券の評価額が上昇したこと等により、前年度比で8億92百万円の増加となっています。

注：本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は、簿外のため含まれていません。

## 主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)

### 当年度の特徴



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

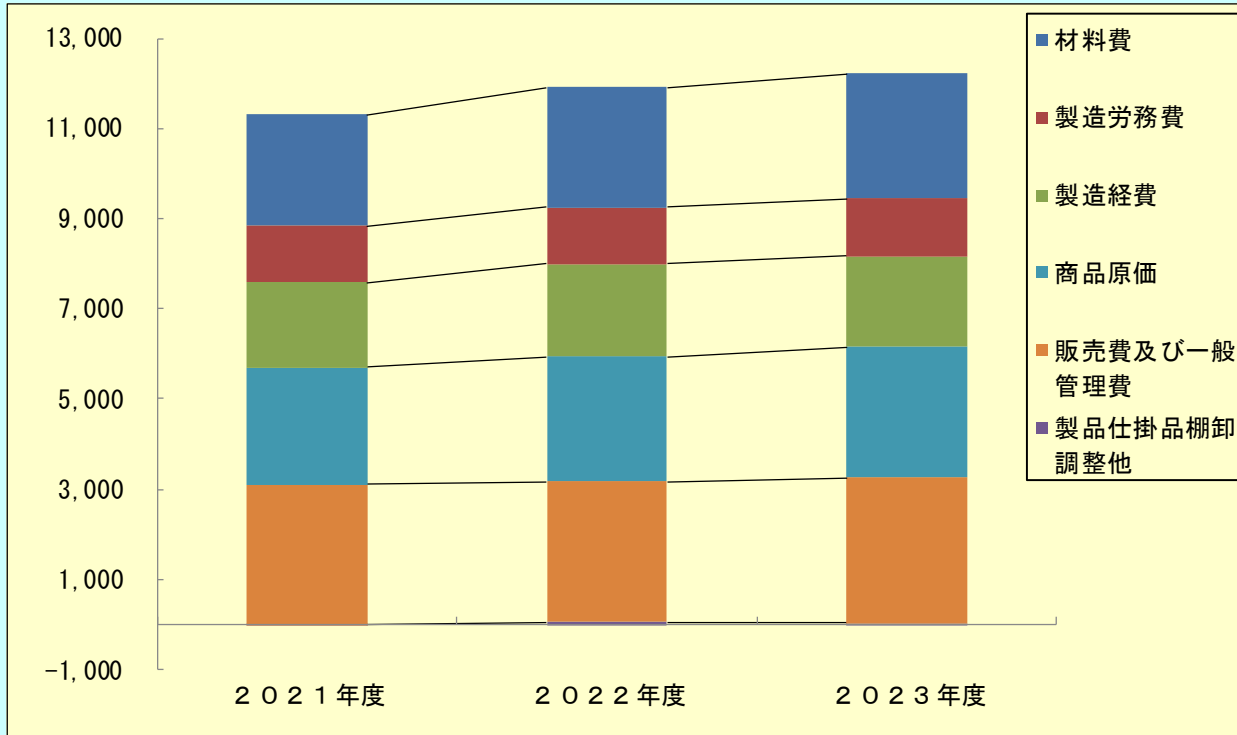
	2021年度	2022年度	2023年度
支払手形	105.4	110.6	103.8
電子記録債務	1,929.9	1,896.1	1,758.1
買掛金	823.5	1,053.5	1,009.1
借入金	3,345.0	3,125.0	3,110.0
その他の負債	1,621.5	1,668.4	1,832.5
純資産	6,497.2	7,348.4	8,283.1
合計	14,322.4	15,202.1	16,096.5

- ① 支払債務（支払手形＋電子記録債務＋買掛金）は、前年度末比で1億89百万円の減少となりましたが、これは通常の変動の範囲内です。
- ② 借入金の残高は、第4四半期に長期借入の折り返しによる資金調達を進めたことから、前年度末比で15百万円の減少となっています。
- ③ その他の負債は、未払法人税等が増加した結果、全体では前年度末比で1億64百万円増加しました。
- ④ 純資産の残高は、繰越利益剰余金が4億77百万円、有価証券評価差額金が4億57百万円増加し、前年度末比では9億34百万円増加の82億83百万円となりました。この結果、自己資本比率は51.5%となり、前年度末比で3.2%向上しています。

## 売上原価・販売管理費推移

(単位：百万円)

### 当年度の特徴



- ① 製品売上高は増加したものの、製品原価率は、前年度比2.8ポイントの悪化となりました。
  - ・材料費は、仕入れ価格の高騰等もあり前年度比で88百万円の増加となりました。
  - ・製造労務費は、19百万円の増加となりました。
  - ・製造経費は、外注加工費が増加したものの、減価償却費等が減少したことを受け、前年度比で22百万円の減少となりました。
- ② 商品原価は、前年度末比で1億26百万円増加しましたが、商品売上高が前年度末比で3億66百万円増加したため、商品原価率は前年度末比で3.0ポイントの改善となりました。
- ③ 販売費及び一般管理費は、社会経済活動の正常化により、展示会や出張を伴う営業活動の活発化、構築を進めている次期基幹システムに係る経費負担等もあり、前年度比では97百万円の増加となりました。

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

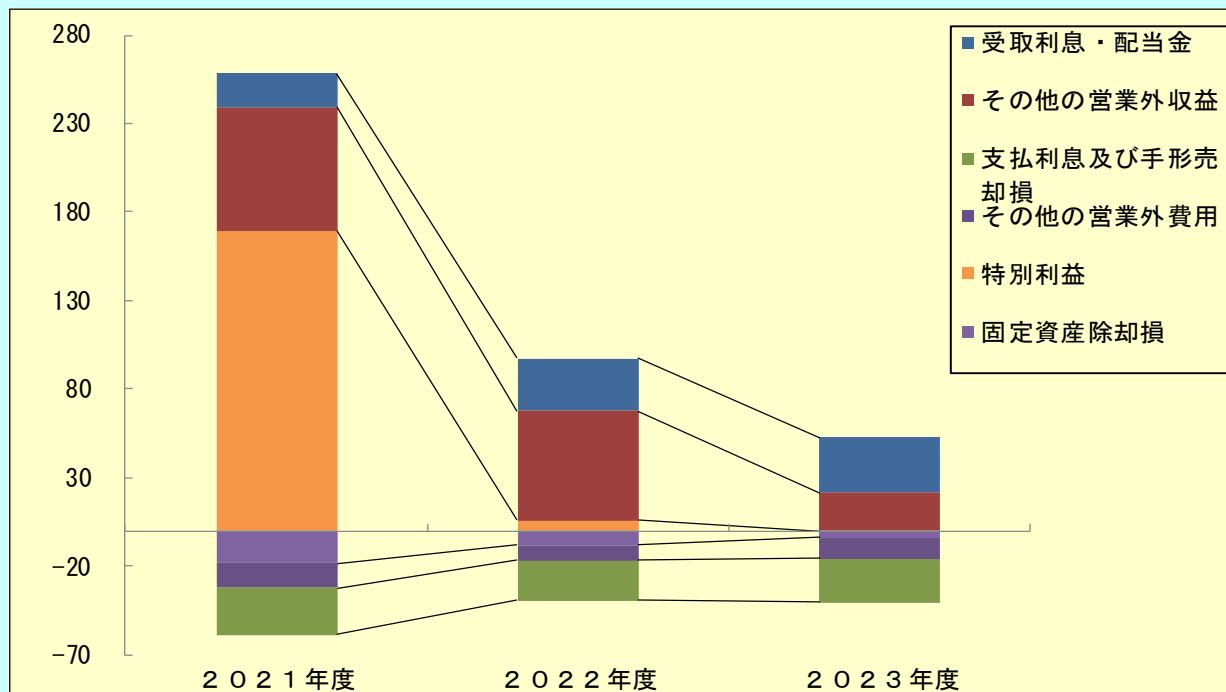
	2021年度	2022年度	2023年度
材料費	2,470.1	2,672.0	2,760.7
製造労務費	1,253.1	1,253.9	1,273.7
製造経費	1,884.1	2,046.8	2,024.5
製品仕掛品棚卸調整他	1.6	55.8	44.7
商品原価	2,607.7	2,762.0	2,888.9
販売費及び一般管理費	3,097.2	3,120.1	3,218.0
合計	11,313.7	11,910.6	12,210.6



## 営業外・特別損益推移

(単位：百万円)

### 当年度の特徴



- ① その他の営業外収益は、前年度までであった受取ロイヤリティー37百万円が、当期は無いことを受け、前年度末比で全体では40百万円の減少となりました。
- ② 金利水準の上昇を受け、支払利息及び手形売却損は、前年度比2百万円の増加となりました。
- ③ 特別損失として、固定資産除却損3百万円を計上いたしました。

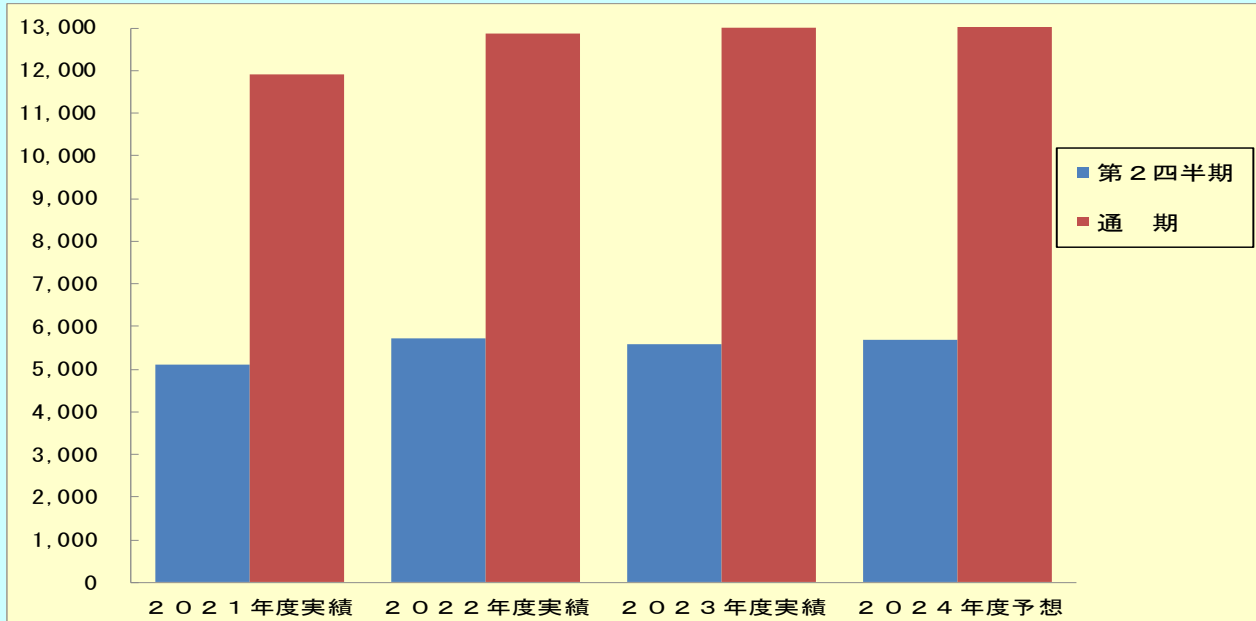
(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

		2021年度	2022年度	2023年度
営業外損益	受取利息・配当金	18.6	29.6	31.1
	その他の営業外収益	70.3	62.1	21.4
	支払利息及び手形売却損	△ 26.3	△ 22.7	△ 24.8
	その他の営業外費用	△ 14.2	△ 8.6	△ 11.9
	営業外損益合計	48.5	60.3	15.9
特別損益	特別利益	169.3	5.6	—
	固定資産除却損	△ 18.3	△ 8.2	△ 3.9
	特別損益合計	151.0	△ 2.6	△ 3.9

# 2024年度 業績予想

## 2024年度の売上予想

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2024年度予想
第2四半期	5,092	5,718	5,602	5,700
通期	11,919	12,876	12,995	13,200

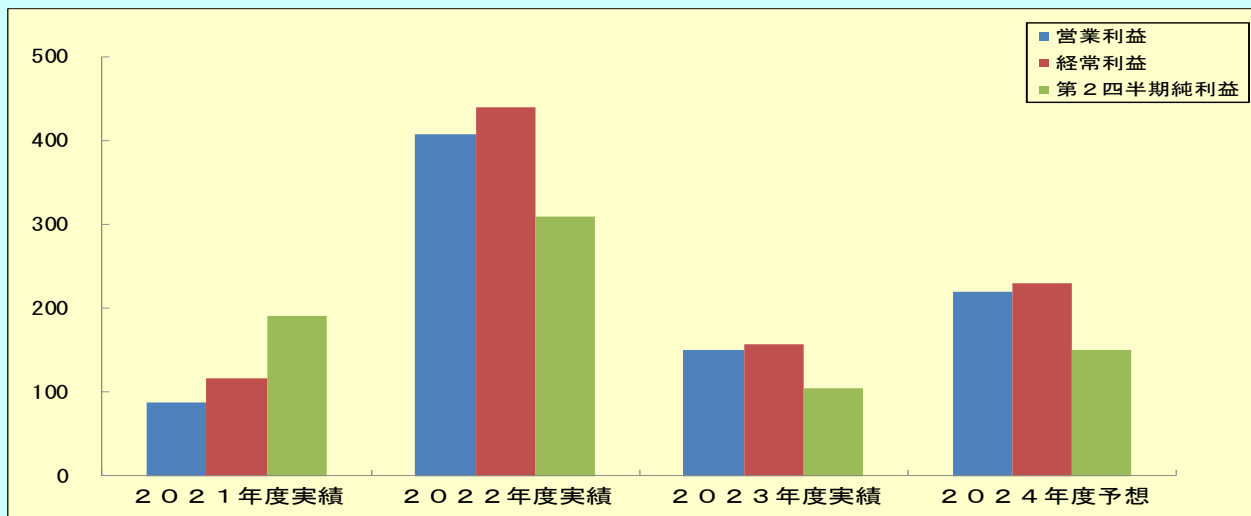
## 予想のポイント

今後のわが国につきましては、ウクライナ情勢・中東情勢、円安等の影響によるエネルギー・資源価格の高止まりなど、経済の先行きは依然不透明であります。

そのような環境の中、呼吸用保護具は、新型コロナウイルス等の感染症や地震、テロ等の各種災害に対する危機管理対策や、各種社会インフラの整備改修等の需要により、今後も一定以上の受注は維持するものと思われ

ます。  
このような諸状況を総合的に勘案し、2024年度の通期売上高は、前年度比2億円増加の132億円を見込んでおります。

## 2024年度 第2四半期の利益予想 (単位：百万円)



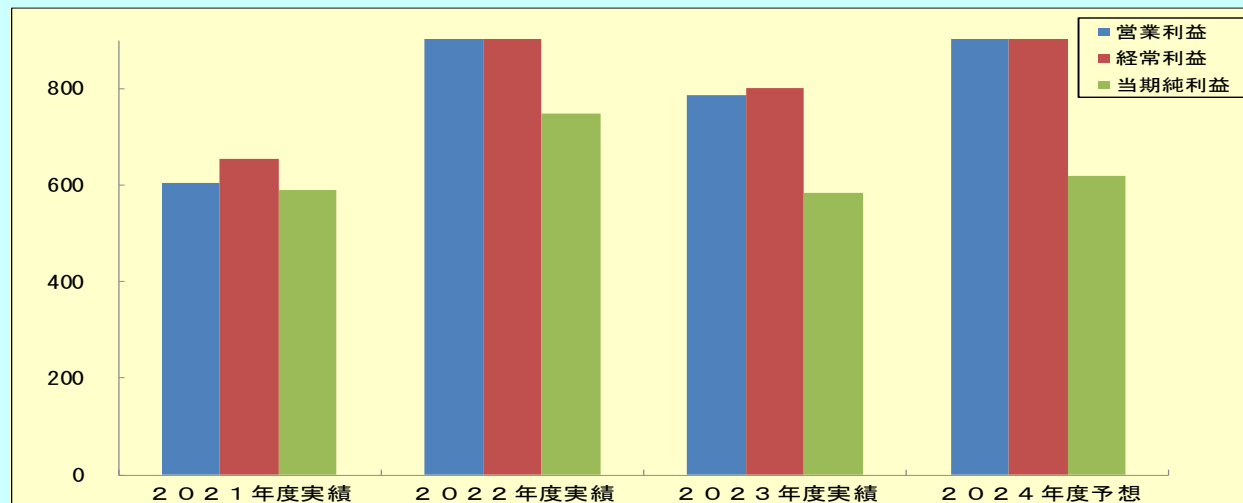
## 予想のポイント

2024年度第2四半期の利益面は、製造・販売部門を中心に各種効率化施策の推進等により、相応の営業利益、経常利益、第2四半期純利益を確保する計画としております。

(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2024年度予想
営業利益	87	407	150	220
経常利益	117	439	157	230
第2四半期純利益	190	309	104	150

## 2024年度 通期の利益予想 (単位：百万円)



2024年度通期は、資材価格・エネルギー価格の高騰、中国経済の停滞等の要因はあるものの、営業活動の推進と諸経費の見直しを進め、前年度以上の営業利益、経常利益、当期純利益を見込んでおります。

(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2024年度予想
営業利益	605	965	785	940
経常利益	654	1,025	801	960
当期純利益	589	748	584	620